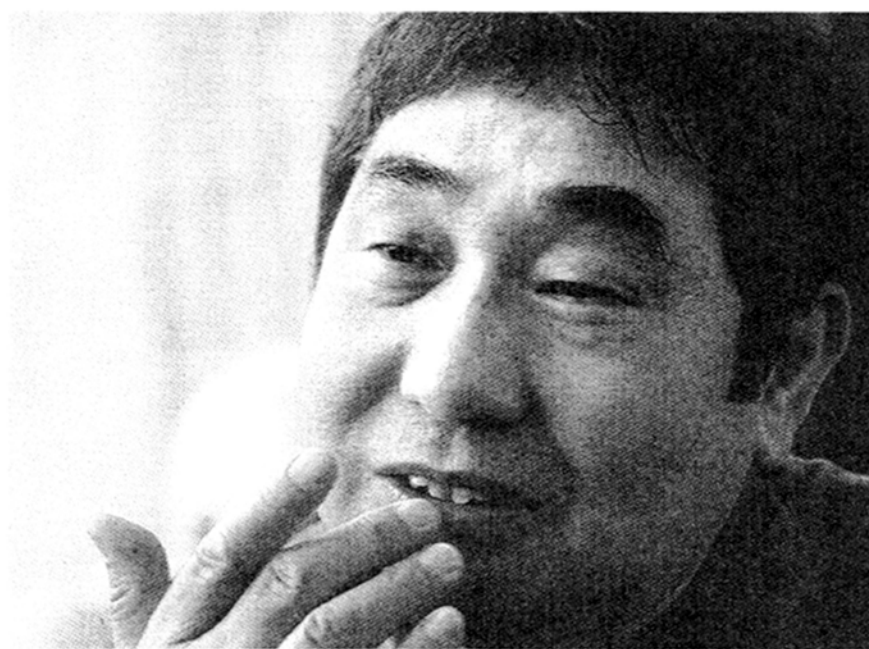


蛭子能収さん「迷惑だ」



裁判員制度について「(裁判員に) なりたい、という人に裁かれるのは怖い。いつか必ず問題が起きる」と話す蛭子能収さん＝東京都港区で

「反対7割」の世論無視？

笛吹けど踊らず。」「やらせ」も「サクラ」も空振りした裁判員制度をめぐる状況だ。与野党こそって導人を決めたが、実施期限まで二年で依然、七割以上の国民が反対。法曹界での異議も少なくなない。「迷惑だ」。漫画家や近ごろ、反対運動の呼び掛け人になった蛭子能収さんは「言い切った。『市民感覚の反映』が柱のこの制度。引き返そう」という民意は尊重されないのか。（田原拓治）



「裁判員にされちゃうと…」(絵・蛭子能収)

えびす・よしかず 漫画家兼タレント。漫画月刊誌「ガロ」で1973(昭和48)年「パチンコ」でデビュー。不条理とナンセンスに満ちたギャグ作品で熱烈なファンをつかむ。80年代後半から俳優やタレントとしても活動を開始。柔和な外見とは裏腹の気後れしない批評で人気をさらう。長崎県出身。59歳。

裁判員制度 殺人や放火な


 どの重大犯罪で死刑もあり得る裁判に、裁判官とともに市民も「裁判員」として参加、有罪か無罪かに加え、量刑を多数決で決める。2009年5月までに実施する。裁判員は衆院選挙の公職選挙人名簿から「くじ」で選ばれ、原則的に拒否できない。一定の理由なく拒めば、違反金(10万円以下)が科せられる。裁判内容の守秘義務は生涯にわたる。数日間の裁判中、休業する補償は日当を除いてない。同制度を「意に反した苦役」として違憲とみなす批判もある。

数千円くらい負けていたなあ」

「多数派の意見と合わないから駄目というのはおかしい。まだ売れてなかったころ、子どもの給食費免除の制度を知って早速、申し込んだ。でも、うちと同じくらい貧しい人たちの大半は、見えて制度を使わない。自分は見えにこたわらない。でも、それでオカシイって言われたくない」

「実際、世の中には変な人が多いですよ。タレントとしてですよ。白蛇に石を投げられる、犬のフンを置かれる、ストーカーされるなんて珍しくない。そんな人たちに蔑かれかねないと思うと、ぞっとする」

速捕後、蛭子さんは取り調べの検事に「日本中、ほとんどの雀荘で賭けマージャンをしていることを知ってますか」と聞いたという。検事は「事実なら、警察が取り締まっているはずだ」と

「市民感覚」とずれてい
力を手にする危つきも蛭
子さんは危惧する。「そ

蛭子さんは「賭博は裁判員制度の対象犯罪じゃないけど、賭けマージャンについての市民常識が採り入れられるかといえは、そうはならないと思う。やはり、逆に警察や検察の建前論が通っちゃうんじゃないの?」。

日本人は権威やムードに弱いと蛭子さんは話す。

「裁判員制度はいろいろな大運動」の十一人の

一見たい映画があつて、呼び掛けの一人になつても偉い批評家がくさすと、急に見る気が萎えちやつてしまふ。テレビのトーク番組でもたたかれやすい人をみんなでたいたい罵れたという。

で、同じ方向にまどめちやう。裁判でも声が大きいのは好きじゃない。で、かつたり権威のある人にも、一人じゃ制度は変わらないし。兵隊にとられ

市民感覚は「常識」とる赤紙がきて、初めてハも言い換えられる。だ　ッとしたって昔の人がいい、と蛭子さんは繰り返す。何かしたい」



きつと逆効果になる」。

裁判官や検事は国家公務員なので、制度に公然とは反対できない。だが、裁判所などで出会うと、反対運動への励ましをききやかれることもあるという。

裁判員制度に必要な制度整備が進み、外堀は埋め尽くされた感がある。反対運動に展望はあるのか。

「現実には追い込まれてゐるのは推進勢力。実施は二年先でも、手続きの開始は来年。それまでに裁判員法の付則にある『国民の叩きつけられた心』を満たさなくてはならない。でも、それは不可能だ。この制度の破たんはずに明らかだ。」

成立前に偶然、法案を知った蛭子さんは「こんな法律できちゃったら困るな。みんな知ってんのかな」と疑問に思っていたという。

「でも、そんなに議論もされてないのに、あれよ、あれよという間に通っちゃった。えっ、と驚いた」

制度の売りは「市民感 荘で、店」と挙げられ、
「覚の反映」だという。実
行犯で逮捕。略式起訴で
罰金を科せられたうえ、
その後、三カ月間のタレ
ント活動停止に追い込ま
れた。

「いわゆるフリーの雀

成立前に偶然、法案を知った蛭子さんは「こんな法律でできちゃったら困るな。みんな知ってんなか」と疑問に思っていたという。

「でも、そんなに議論もされてないのに、あれよ、あれよという間に通

は、このことに絡んで、蛭子さんには苦い思い出がある。九八年に東京・歌舞伎町のマージャン店で、マージャン賭博の現行犯で逮捕。略式起訴で罰金を科せられたうえ、その後、三カ月間のタレント活動停止に追い込ま

「いわゆるフリーの雀制度の売りは「市民感」で、店」と挙げられ、
「覚の反映」だという。実、捕まったとき、

な、昨日とはちがう自分と
出会えるはずで」

高山弁護士は制度の狙いを「国家によるマインドコントロール」とみている。

「制度を通じ、治安維持のための厳罰を常に自覚させる。悪いヤツと正しい市民に境界線をつくり、犯罪を生む社会的背景などを切り

制度に反対の高山俊吉弁護士

捨てる思考を身につけさせる。それが教育の中身だ」
推進派は「市民感覚の反映」を掲げる。「それは無
理。賭けマージャンは普通
という市民常識があつて
驗に根ざした新鮮で多様な
視点」が説かれているが、
立法過程で最高裁や法務省
・検察から従来の姿勢を旨
省する意見はなかったとい

も、それを違法とする法律までは変えられない」。啓徳補助教材『心のノート』発ポスターには「感覚や経」と同じ。お上が準備した

開催二日前なのに模擬裁判の客席が半分しか埋まらない。動員を。裁判員制度を推進する東京弁護士会からの要請文を手にとり「これが現実です」と高山俊吉弁護士は苦笑した。高山弁護士は同会に属しながら、裁判員制度に反対してきた。高山弁護士は最高裁、法務省・検察、日本弁護士連合会（日弁連）の法曹三者合同の啓発ポスターの文言に注目する。そこに最大の問題点が隠されているという。

「裁判が変わりはじめる」と社会も変わりはじめると思う」「安心して暮らせる社会には何が必要か、自分のこととして考える。その

市民感覚 反映は無理

捨てる思考を身につけさせる。それが教育の中身だ」
 推進派は「市民感覚の反映」を掲げる。「それは無理。賭けマージャンは普通という市民常識があつて」
 までは変えられない」。啓発ポスターには「感覚や経験に根ざした新鮮で多様な視点」が説かれているが、立法過程で最高裁や法務省・検察から従来の姿勢を主張する意見はなかったという。
 「つまりは小中学生の道徳補助教材『心のノート』と同じ。お上りが準備した

野党のみならず日弁連も推進の立場にある。高山氏は「在野法曹の視点を失った弁護士たちは論外。ただそつでない人でも反動化が著しい刑事司法の現場を変えするため、イチかバチかで新風を吹き込みたい」と考えた人もいた。だが、それは人はずでに明らかだ。



きつと逆効果になる」。

裁判官や検事は国家公務員なので、制度に公然とは反対できない。だが、裁判所などで出会うと、反対運動への励ましをささやかれることもあるという。

公判前整理手続きなど、裁判員制度に必要な制度整備が進み、外堀は埋め尽くされた感がある。反対運動に展望はあるのか。

「返す赤紙がきて、初めてハッとしたって昔の人がいうでしょ。そうなる前に何かしたい」

きつと逆効果になる」。裁判官や検事は国家公務

員なので、制度に公然とは反対できない。だが、裁判所などで出会うと、反対連

動への励ましをささやかれることもあった。

公判前整理手続きなど、裁判員制度に必要な制度整備が進み、外堀は埋め尽く

された感がある。反対運動に展望はあるのか。

一現実には追い込まれて
いるのは推進勢力。実施は

二年先でも、手続きの開始は来年。それまでに裁判員

法の付則にある「国民の理解と関心」を満たさなくて

はならない。でも、それは不可能だ。この制度の破たんはすでに明らかだ